製造DXドットコム ／ 実務ガイド

図面管理AI化ガイド

公開事例3社に共通していた「図面が探せない」3つの詰まり方と、検討を始める前に決める5つのこと

> 図面管理をAI化するかどうかは、ツールを比較する前に決まります。
> 本ガイドは、公開されている導入事例3社の情報だけを材料に、
> 自社がどの詰まり方をしているかを見極めるための実務資料です。

収録　公開事例3社の横断分析／自己診断チェックリスト30項目／採点と次の一手／向かない条件

発行: 製造DXドットコム（roboin-fa.com）　編集: 装置メーカーの設計・生産技術業務スペシャリスト　2026年9月版

はじめに

この資料が支援する判断

この資料は、次の判断のために作られています

設計・生産技術・調達の責任者が、**「自社の図面管理をAI化すべきか、するとしたら何から手をつけるか」**を、製品を比較検討する前に決めるための資料です。判断の分かれ目は「図面が探せない」という症状そのものではなく、**なぜ探せないのか、その詰まり方がどれか**にあります。詰まり方が違えば、効く打ち手も、効果が出るまでの期間も変わります。

この資料の作り方（お読みいただく前に）

本ガイドに記載した企業名・課題・導入後の変化は、**すべて公開されているプレスリリースおよび公式サイトの記述**に基づいています。取材による非公開情報、推定値、想定シナリオは一切含めていません。出典は各章の末尾と巻末に URL を明記しています。

また、効果を数値で断定していない箇所があります。これは公開情報にその数値がないためです。**公開されていない数値を、それらしく補うことはしていません。**数値が必要な判断については、どの数値を自社で測るべきかを本文中に記載しています。

目次

1. **第1章**　なぜ図面は「探せない」のか ― 公開事例3社に共通した3つの詰まり方
2. **第2章**　公開事例3社の事実（湖国精工／三重精機／昭和精工）
3. **第3章**　測るべきは「探す時間」ではなく、その先で止まっている判断
4. **第4章**　検討を始める前に決める5つのこと
5. **第5章**　自己診断チェックリスト30項目
6. **第6章**　採点と、次の一手
7. **第7章**　AI化が向かない条件・急がなくていい条件
8. **第8章**　90日の進め方
9. **巻末**　参照した公開情報の一覧／製品仕様の公開データ

> **所要時間の目安**　通読 20〜30分／第5章のチェックリスト記入 30〜45分。第5章は関係者3名以上（設計・生産技術・現場）で別々に記入し、答えが割れた項目を突き合わせる使い方を想定しています。答えが割れる項目こそが、自社の詰まり方を示しています。

第1章

なぜ図面は「探せない」のか

公開されている図面管理システムの導入事例を読むと、「図面が探せない」という一言でまとめられている状態が、実際には**まったく違う3つの詰まり方**に分かれることが分かります。3社の公開情報に記載された導入前の課題を並べると、次のように整理できます。

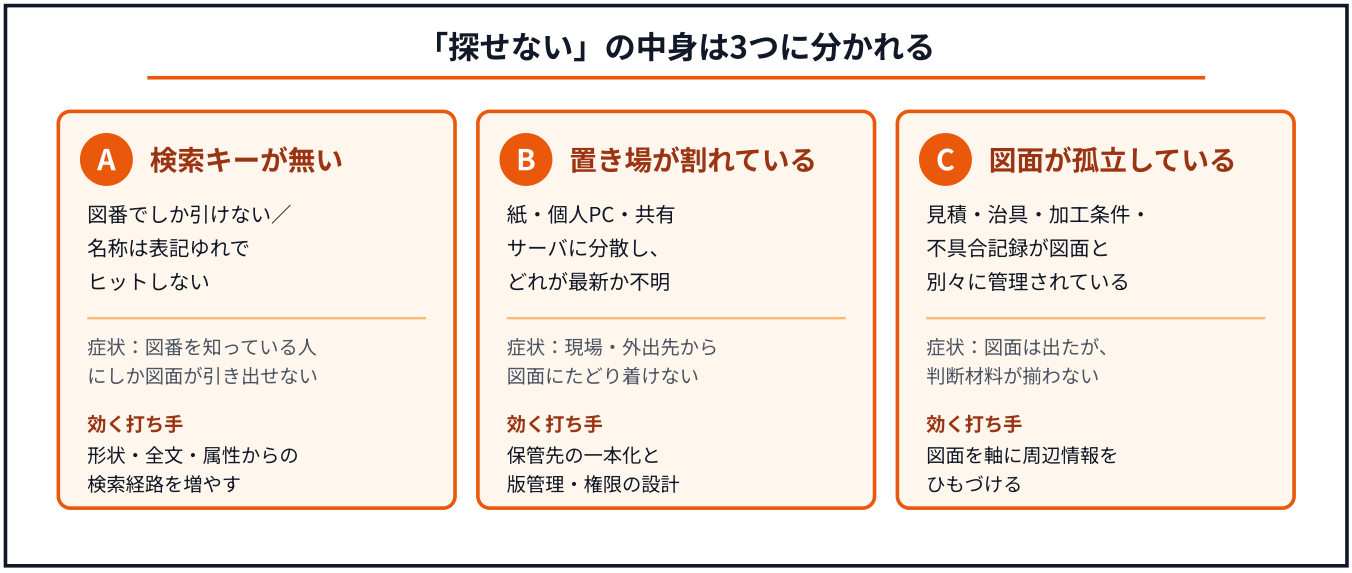


図1：公開事例3社の「導入前の課題」から抽出した、図面が探せない3つの詰まり方

A：検索キーが足りない

昭和精工の公開事例では、導入前の課題として**「図面番号での検索ができない」「名称で検索しても表記ゆれでヒットしない」**ことが挙げられています。この状態では、図面を引き出せるのは**図番を記憶している人だけ**になります。検索の入口が1つしかないため、その入口を知らない人にとっては図面が存在しないのと同じです。

B：置き場が割れている

三重精機の公開事例では、**「図面や関連書類の保管は紙が主体で、必要な書類の検索に時間を要していた」**と記載されています。紙・個人PC・共有サーバに分散していると、探す時間が増えるだけでなく、**どれが最新版かの判断そのものが人に依存します**。同社の導入後の変化として「外出先からブラウザ経由で即座に図面検索が可能になった」ことが挙げられており、これは詰まり方Bが解けた状態です。

C：図面が孤立している

昭和精工の公開事例には、**「過去の加工情報、図面、治具情報が一元管理されておらず、情報取得にばらつきが生じていた」**とあります。図面そのものは出てきても、その図面を加工したときの条件・使った治具・起きた不具合が別の場所にあると、**図面を見つけた時点では、まだ何も判断できません**。同社は導入後、使用治具・作業動画・3Dモデル・不具合記録・加工ルールを図面にひもづけて一元管理し、図面にQRコードを添付して現場から瞬時にアクセスできるようにしたと公開されています。

> **3つの詰まり方は独立していません。**Aが解けなければBを一本化しても引き出せず、A・Bが解けてもCが残れば判断材料は揃いません。ただし**着手の順番はA→B→Cが自然**です。検索経路を増やすことは既存の保管方法を変えずに始められる一方、Cは「何を図面にひもづけるか」を業務側で決める必要があり、準備に最も時間がかかります。

第2章

公開事例3社の事実

ここに記載した内容は、いずれも一般公開されているプレスリリースの記述です。**各社の公開情報に書かれていない事項（削減時間、コスト、投資回収期間など）は記載していません。**

湖国精工株式会社

滋賀県大津市／治工具・組立機の設計製作、据付け工事／日本精工グループ／代表取締役社長 磯田雄祐 氏／公開 2025年9月10日

公開されている導入前の課題

図面に変更がないか、前回との違いを確認する作業に手間を要していた。膨大な図面管理が煩雑だった。

公開されている導入後の変化

見積依頼・発注時に、過去の類似図面を瞬時に検索できるようになった。正確な見積作成により QCD（品質・コスト・納期）の向上につながった。図面管理システムを**案件管理ツールとしても**活用している。

この事例の読みどころ

「図面を探す」ではなく**「前回との違いを確認する」**が課題として挙げられている点です。差分確認は、探す作業よりも判断に直結します。また、図面管理を案件管理に転用しているのは、詰まり方Cを自社の運用で解いた例といえます。

出典: PR TIMES「湖国精工株式会社が図面バンクを導入」https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000141.000046923.html（2026年9月1日取得）

三重精機株式会社

三重県桑名市／自動車部品メーカー／1937年創業（公開時点で88周年）／代表取締役 髙橋宏和 氏／公開 2025年8月22日

公開されている導入前の課題

新規販路の拡大により見積件数が大幅に増加。生産技術部の加工見積が属人化し、顧客への回答が遅延していた。図面・関連書類は紙保管が主体で、必要書類の検索に時間を要していた。

公開されている導入後の変化

類似検索機能により、過去案件のサイクルタイムを引用して見積を作成できるようになった。外出先からブラウザ経由で即座に図面を検索できるようになった。**20代から60代までの幅広い年齢層が基本操作で対応**している。

この事例の読みどころ

課題の起点が「見積件数の増加」という**事業側の変化**である点です。図面管理は総務的な整理整頓の話に見えますが、この事例では受注機会の取りこぼしに直結しています。また「20代から60代が基本操作で対応」は、定着の条件が操作の平易さにあることを示しています。

出典: PR TIMES「三重精機株式会社が図面バンクを導入」https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000137.000046923.html（2026年9月1日取得）／関連記事: MONOist https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2508/25/news029.html

昭和精工株式会社

神奈川県横浜市／プレス金型の総合メーカー（自動車・食品容器・リチウムイオン電池向け金型の設計製作）／代表取締役 木田康隆 氏／公開 2026年4月1日

公開されている導入前の課題

図面番号での検索ができない。名称で検索しても表記ゆれでヒットしない。必要な情報を探すのに時間と手間がかかっていた。過去の加工情報・図面・治具情報が一元管理されておらず、情報取得にばらつきが生じていた。

公開されている導入後の変化

加工履歴や作業手順に迅速にアクセスできるようになり、加工時の迷いや判断のばらつきが大幅に減少。**不具合削減と品質安定化**を実現し、属人化の解消が進行している。使用治具・作業動画・3Dモデル・不具合記録・加工ルールを図面にひもづけて一元管理。図面にQRコードを添付し、現場から瞬時にアクセスできるようにした。

この事例の読みどころ

3社のなかで唯一、成果が**「探す時間」ではなく「品質」で語られている**事例です。図面に作業動画や不具合記録までひもづけたことで、効果が検索の速さを越えて加工判断の質に及んでいます。詰まり方A（検索キー）とC（孤立）の両方に手を打った結果と読めます。

出典: PR TIMES「昭和精工株式会社が図面バンクを導入」https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000151.000046923.html（2026年9月1日取得）／インタビュー全文 https://zumen-bank.com/interview/06 ／関連記事: MONOist https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2604/14/news011.html

3社の横断で見えること

観点	湖国精工	三重精機	昭和精工
業種	治工具・組立機	自動車部品	プレス金型
主な詰まり方	A（差分確認）＋C	A＋B（紙保管）	A＋C
課題の起点	図面変更の差分確認	見積件数の増加	検索キーの不在
公開された成果の語り口	見積の正確性・QCD	回答速度・場所の自由	品質・不具合削減
図面以外に扱ったもの	案件情報	過去案件のサイクルタイム	治具・動画・3D・不具合・加工ルール

3社に共通していたのは「検索キーの不足（詰まり方A）」だけです

3社は業種も規模も課題の起点も違いますが、**いずれも「今ある検索の入口では引き出せない」状態から始まっています**。一方で、B（保管の分散）とC（図面の孤立）はどの企業にもあるわけではありません。**自社がA・B・Cのどれを抱えているかを先に確定させることが、比較検討よりも先の作業です。**第5章のチェックリストはそのためのものです。

第3章

測るべきは「探す時間」ではない

図面管理の投資判断では、「1件あたりの検索時間 × 件数 × 人件費単価」で効果を試算することがよくあります。この計算は分かりやすい一方で、**効果を実際より小さく見積もる**ことになりがちです。理由は、探す時間の裏で止まっているものが計算に入らないからです。

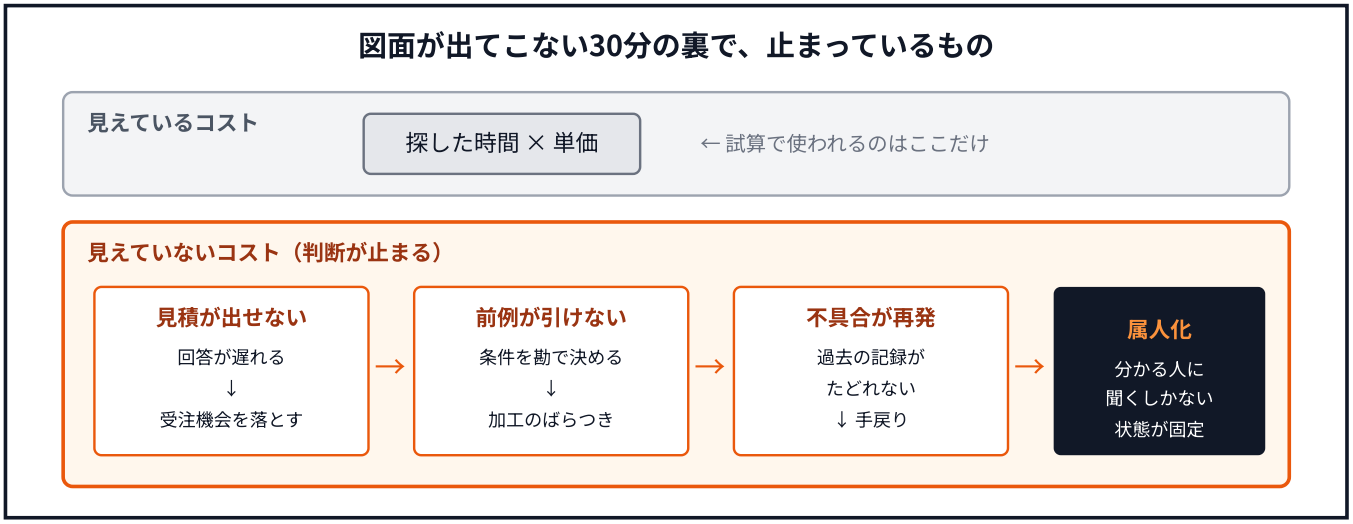


図2：検索時間の裏で連鎖している、測られていないコスト

第2章で見たとおり、3社が公開した成果は**いずれも「探す時間が減った」では終わっていません**。三重精機は見積回答の速度、湖国精工は見積の正確性とQCD、昭和精工は不具合削減と品質安定化を挙げています。つまり、**効果が現れるのは検索の直後ではなく、その先の判断のところ**です。

自社で測るなら、この4つ

指標	測り方	なぜこれか
見積の平均リードタイム	引合受領から回答までの日数（直近3ヶ月の中央値）	三重精機の課題「回答が遅延」に対応。事業成果に最も近い
見積を出せずに辞退した件数	引合台帳から「未回答・辞退」を件数で数える	探す時間には現れないが、最も大きい損失
「この図面どこ？」の問い合わせ回数	1週間、設計部門への口頭・チャットの依頼を正の字で数える	属人化の度合いを、最も安く測れる代理指標
同一原因の不具合の再発件数	不具合記録から「過去に同種あり」の件数を数える	昭和精工の成果「不具合削減」に対応。詰まり方Cの直接指標

> 導入前に上の4つを1回だけ測っておいてください。**導入後に測っても、比較する相手がいません。**いずれも既存の台帳と1週間の手集計で足りるため、費用はかかりません。

第4章

検討を始める前に決める5つのこと

製品の比較表を作る前に、社内で先に決めておくべきことが5つあります。ここが決まっていないと、比較の軸が定まらず、機能の多さで選ぶことになります。

① 何を検索キーにするか

図番・名称だけでなく、**形状・図面内の文字・属性（材質、公差、発行元、取引先）**のうち、どれで引きたいかを決めます。昭和精工の事例が示すとおり、名称検索は表記ゆれで機能しなくなります。「うちは図番で引ければ十分」と判断する場合も、**図番を知らない新人・他部門・協力会社がどう引くか**を必ず併せて検討してください。

② 図面に何をひもづけるか

図面単体で足りるのか、見積・治具・加工条件・作業動画・不具合記録・3Dモデルまで必要かを決めます。**ここが第3章の効果を左右します。**昭和精工は治具・作業動画・3Dモデル・不具合記録・加工ルールまでひもづけたと公開しています。ただし、ひもづける対象を増やすほど、**登録の手間と運用ルールの整備が増えます**。最初から全部を狙わず、1つに絞ることをおすすめします。

③ 誰が、どこから使うか

設計部門の中だけか、生産技術・調達・現場・営業まで広げるか。外出先や現場から使うか。三重精機は「外出先からブラウザ経由で」「20代から60代までが基本操作で対応」と公開しています。**使う人の幅を先に決めると、必要なユーザー数と権限設計が決まり、費用の見当がつきます。**

④ 既存データをどこまで取り込むか

紙図面のスキャン、過去のPDF、CAD/CAMのネイティブファイル、3Dデータのうち、どこまでを対象にするか。**ここが導入期間とコストの最大要因です。**「過去10年分すべて」と「直近3年＋引合の多い品番のみ」では、準備の重さがまったく違います。三重精機のように紙保管が主体だった場合は、スキャンの工数を別途見込む必要があります。

⑤ 誰が運用ルールを維持するか

登録のタイミング、命名規則、版の扱い、権限の棚卸しを誰が決めて誰が守らせるか。**ここを決めずに導入すると、半年後に「登録されていない図面」が生まれ、元の状態に戻ります。**兼務でかまいませんが、担当者を名前で決めてください。

5つのうち、最も飛ばされやすいのは ⑤ です

①〜④は製品選定の過程で自然に議論になりますが、⑤は「導入してから考える」になりがちです。**過去に社内システムを入れて現場が元のやり方に戻った経験がある場合、原因はほぼ⑤にあります。**ツールの機能差ではありません。

第5章

自己診断チェックリスト30項目

当てはまるものにチェックを入れてください。**「どちらとも言えない」はチェックを入れない**でお願いします。6ブロック各5項目、計30項目です。第6章で採点します。

✓	項目
ブロックA｜検索キー（詰まり方A）	
☐	A-1　図番を知らないと、目的の図面にたどり着けないことがある
☐	A-2　部品名の表記が人によって違い（略称・英字・全角半角）、検索でヒットしないことがある
☐	A-3　「似た形状の部品を過去にやっていないか」を調べる手段が、記憶か勘に頼っている
☐	A-4　図面内に書かれた文字（材質・公差・注記）を条件にした検索ができない
☐	A-5　図面を探せるのは特定の数名で、その人が不在だと止まる
ブロックB｜保管と版（詰まり方B）	
☐	B-1　図面が紙・個人PC・共有サーバなど複数の場所に分かれている
☐	B-2　どれが最新版かを、ファイル名や日付から人が判断している
☐	B-3　現場や外出先から図面を見る手段が、印刷か持ち出ししかない
☐	B-4　誰がどの図面を見られるかの権限が、フォルダの置き場所で決まっている
☐	B-5　過去に「古い版で加工してしまった」「古い版で見積した」ことがある
ブロックC｜図面の周辺情報（詰まり方C）	
☐	C-1　その図面をいくらで見積もったかが、図面からはたどれない
☐	C-2　その図面をどの治具・段取りで加工したかが、図面からはたどれない
☐	C-3　その図面で起きた不具合と対策が、図面からはたどれない
☐	C-4　過去案件のサイクルタイム・加工時間を、見積時に引用できていない
☐	C-5　同じ原因の不具合が、別の案件で再発したことがある

✓	項目
ブロックD｜事業へのはね返り	
☐	D-1　見積の回答が遅れて、失注または辞退したことが直近1年である
☐	D-2　引合件数が増えており、いまのやり方では回答が追いつかない見通しがある
☐	D-3　見積の精度が担当者によってばらつく
☐	D-4　図面の変更点（前回との差分）の確認に、毎回まとまった時間がかかっている
☐	D-5　新規の取引先・新規領域への展開を予定しており、過去案件の参照頻度が上がる
ブロックE｜人と定着	
☐	E-1　図面を扱う人の年齢層が幅広く、複雑な操作は定着しない見込みがある
☐	E-2　ベテランの退職・異動が今後3年以内に予定されている
☐	E-3　過去に社内システムを導入したが、現場が元のやり方に戻った経験がある
☐	E-4　新人が独力で過去図面を参照できるようになるまで、半年以上かかっている
☐	E-5　設計部門以外（生産技術・調達・営業・現場）も図面を見る必要がある
ブロックF｜準備できているか	
☐	F-1　取り込む対象の図面が、どこに何点あるかをおおよそ把握している
☐	F-2　使っているCAD／CAMのファイル形式を列挙できる
☐	F-3　図面を扱う人数（社内・協力会社を含む）を数えられる
☐	F-4　運用ルールを維持する担当者を、名前で1人決められる
☐	F-5　第3章の4指標のうち、少なくとも1つを来週中に測れる

> **ブロックFだけは意味が逆です。**A〜Eは「チェックが多いほど課題が大きい」、Fは**「チェックが多いほど準備ができている」**ことを表します。第6章の採点で分けて扱います。

第6章

採点と、次の一手

記入結果の集計

ブロック	A	B	C	D	E
チェック数（各5点満点）	／5	／5	／5	／5	／5
A〜Eの合計	**／25**				**F：　／5**

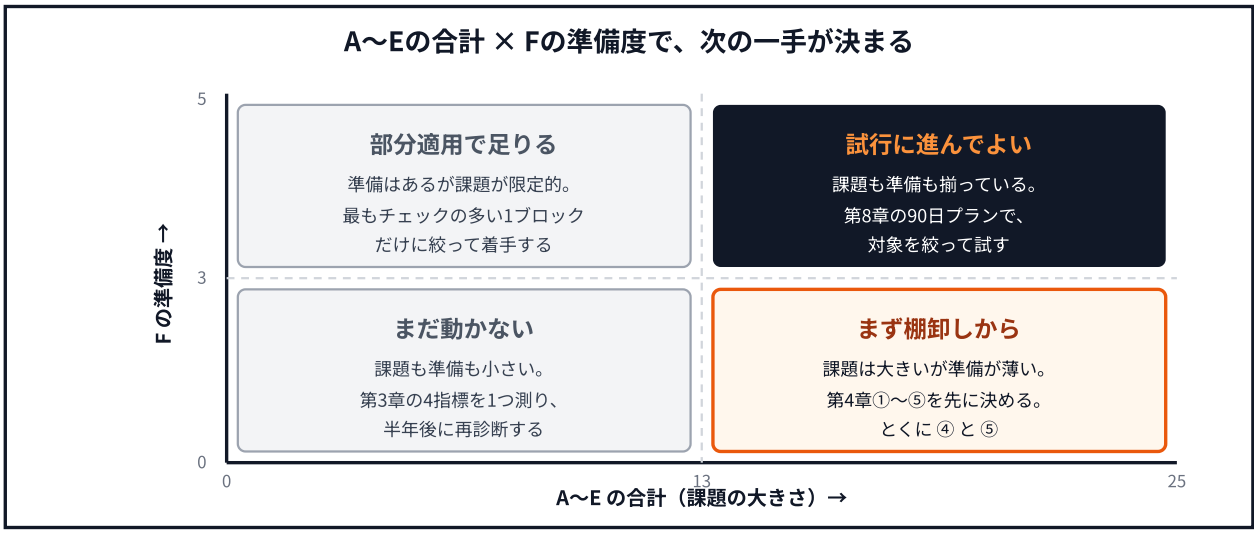


図3：チェック結果の採点マトリクス。合計13以上／F3以上を境界とする

ブロック別の読み方

最多ブロック	自社の詰まり方	先に手をつけるところ
A	検索キーが足りない	検索の入口を増やす。既存の保管方法を変えずに始められるため、最も着手が軽い
B	保管が分散している	保管先の一本化と版管理。**取り込み工数の見積が先**（第4章④）。紙が主体なら、スキャンの体制づくりから
C	図面が孤立している	「図面に何をひもづけるか」を1つだけ決める（第4章②）。全部を一度に狙わない
D	事業側の緊急度が高い	効果が最も早く出る領域。**見積プロセスに範囲を絞って**始める。第3章の指標①②を必ず事前に測る
E	定着が最大のリスク	機能ではなく**操作の平易さと運用担当者（第4章⑤）**で選ぶ。E-3にチェックがある場合はとくに

> 複数ブロックが同点で並んだ場合は、**Dを優先**してください。Dは事業成果に最も近く、社内で投資判断の合意が得やすいためです。A〜Cは手段、Dは目的にあたります。

第7章

AI化が向かない条件・急がなくていい条件

ここまで読み進めた方に、あえて逆の話をします。**次の条件に当てはまる場合、いま図面管理のAI化に投資しても、期待した効果は出にくいと考えられます。**

1｜図面の総数が少なく、扱う人も数名で固定されている

検索の価値は、母数と関係者の多さから生まれます。図面が数百点で、扱う人が同じ部屋に3名しかいない場合、**「あの人に聞く」が現時点では最速です。**この状態で導入しても、登録の手間だけが増えます。ただし、E-2（ベテランの退職・異動が3年以内）にチェックがある場合は話が別です。

2｜図面そのものが、まだ電子化されていない量が大半を占める

紙のスキャンには相応の工数と期間がかかります。**これはツール選定の問題ではなく、体制の問題です。**スキャンの担当と期間を決められないうちに契約すると、「システムはあるが中身が入っていない」状態で月額が発生します。三重精機の事例のように紙保管が主体だった企業もありますが、公開情報からスキャンの工数までは読み取れません。**自社の分は自社で見積もる必要があります。**

3｜運用ルールを維持する担当者を決められない（F-4が未チェック）

第4章⑤のとおりです。担当者が決まらないまま始めると、登録されない図面が生まれ、**「システムを見ても無いことがある」状態**になります。一度そうなると、現場は元のやり方に戻ります。**この条件が解けないうちの導入は推奨しません。**先に決めるべきは製品ではなく担当者です。

4｜検索の速さだけを効果として社内説明しようとしている

第3章のとおり、検索時間だけの試算では投資対効果が小さく見え、稟議が通りません。仮に通っても、導入後に**「思ったほど時間が減っていない」と評価されて終わります。**見積リードタイム・失注件数・不具合の再発件数を併せて測らないまま進めるのは、社内合意の観点から適しません。

5｜「AIが図面を読んで、判断まで代わりにやってくれる」ことを期待している

公開されている3社の事例で語られている成果は、**いずれも「人が判断するための材料が、早く・確実に揃うようになった」**という内容です。加工条件や見積金額を決めているのは人です。判断そのものの自動化を前提に投資判断をすると、期待と結果がずれます。

逆に、急いだ方がよい条件

D-2（引合件数が増えており、いまのやり方では追いつかない見通し）と E-2（ベテランの退職・異動が3年以内）の両方にチェックがある場合です。**どちらも「時間が経つほど条件が悪くなる」性質の課題**で、ベテランが在籍しているうちでなければ、暗黙知を図面にひもづける作業そのものができなくなります。

第8章

90日の進め方

第6章で「試行に進んでよい」または「部分適用で足りる」だった場合の進め方です。**全社展開を最初から狙わないこと**を前提にしています。

期間	やること	終了条件	つまずきやすい点
1〜2週	第3章の4指標のうち2つを実測。第5章のチェックを関係者3名で個別記入し突き合わせ	ベースラインの数値が紙に残っている	「だいたい分かっているから」と測らずに進めると、後で効果を説明できない
3〜4週	第4章①〜⑤を文書で確定。とくに④の対象範囲と⑤の担当者を名前で決める	対象図面の点数と形式が数えられている	④の範囲を広げすぎる。**直近3年＋引合の多い品番**程度から始める
5〜8週	絞った範囲で試行。使うのは1部門・1用途（例：見積時の類似図面参照）のみ	試行範囲の図面が実際に検索できている	用途を複数同時に試すと、何が効いたか分からなくなる
9〜12週	1〜2週で測った指標を再測定。第5章のチェックを同じ3名で再記入	数値の変化と、チェック数の変化が並んでいる	再測定を飛ばして展開へ進むと、次の予算取りの根拠がなくなる

試行の範囲を1つに絞る理由

第2章の3社は、それぞれ違う入口から始めています。湖国精工は**見積依頼・発注時の類似図面検索**、三重精機は**見積作成時のサイクルタイム参照**、昭和精工は**加工現場からの情報参照**です。いずれも「まず全社の全図面を」ではなく、**特定の業務の中で使われています**。効果が出る場所を先に1つ確かめる方が、結果として展開は早くなります。

90日後に判断すること

1. **指標が動いたか**（第3章の4つ）。動いていなければ、範囲か使い方が合っていない
2. **チェック数が減ったか**（第5章のA〜E）。減っていれば、詰まり方が実際に解けている
3. **登録が滞っていないか**。滞っていれば、原因は運用ルール（第4章⑤）であってツールではない

巻末

参照した公開情報の一覧

本ガイドの記載は、すべて以下の公開情報に基づいています（いずれも2026年9月1日取得）。

導入事例（プレスリリース）

- 湖国精工株式会社の導入事例（2025年9月10日公開）
  https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000141.000046923.html
- 三重精機株式会社の導入事例（2025年8月22日公開）
  https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000137.000046923.html
- 昭和精工株式会社の導入事例（2026年4月1日公開）
  https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000151.000046923.html

業界メディアの記事

- MONOist（三重精機の事例）https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2508/25/news029.html
- MONOist（昭和精工の事例）https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2604/14/news011.html
- ASCII STARTUP（新機能の追加・2025年5月30日）https://ascii.jp/elem/000/004/281/4281096/

製品の公開仕様（参考）

本ガイドで扱った3社の事例は、いずれも株式会社New Innovations が提供する「図面バンク」の導入事例として公開されているものです。第4章の検討項目を具体化するための参考として、同サービスの公式サイトに公開されている仕様を以下に転記します（2026年9月1日時点）。**他の製品と比較検討される場合も、同じ観点で並べると判断しやすくなります。**

項目	公開されている内容
検索（第4章①）	全文OCR検索（手書き文字・古いスキャン図面に対応）／AIによる自動属性付与／形状ベースの類似図面検索／AIチャット
ひもづけ（同②）	図面と関連書類（見積書・各種技術文書・CAD／CAMファイル等）をひもづけて保存
利用者・権限（同③）	管理者／編集者／閲覧者の権限設定、図面タイプ別のアクセス制御、版管理
対応形式（同④）	PDF／TIFF／DXF／DWG／Office系／画像／動画／音声／STEP／IGES／主要CADのネイティブ形式
提供形態	クラウド型（AWS／GCP上、国内データセンター限定）。ブラウザ利用でインストール不要
セキュリティ	ISO27001取得／ITGC運用／多層防御。入力データをAIの学習には利用しないと明記
料金	スタンダードプラン 月額48,000円（税抜）／最大200ユーザー／図面保管15万点／最低利用期間12ヶ月。エンタープライズプランは個別見積
2025年5月の追加機能	AI解析インジケーター／AIによる図面発行元の自動読み取り／3Dファイルのサムネイル表示

出典: 図面バンク公式サイト https://zumen-bank.com/ ／ ASCII STARTUP（前掲）。料金・仕様は変更される場合があるため、検討時は必ず公式サイトの最新の記載をご確認ください。

巻末

数値の扱いと、次の一歩

> **数値の扱いについて**　プレスリリース中に記載のある「図面を探す手間と人件費の4割削減」は、昭和精工の事例リリースにおいて※**New Innovations 調べ**と注記された提供元による数値であり、導入企業各社が実測して公表した数値ではありません。本ガイドでは自社の判断材料として用いないことを推奨し、代わりに第3章の4指標を自社で測ることを提案しています。

自社の詰まり方を、一緒に棚卸ししませんか

第5章のチェック結果をお持ちいただければ、A〜Fのどこから着手するか、その際に何を測るべきかを一緒に整理します。製品の押し売りはいたしません。ツールを入れない結論になることも含めて、実務としてご一緒します。

ご相談: roboin-fa.com/contact/　／　図面バンクの詳細: zumen-bank.com

図面管理AI化ガイド（2026年9月版）／発行: 製造DXドットコム（roboin-fa.com）／編集: 装置メーカーの設計・生産技術業務スペシャリスト
本資料に記載した企業名・数値・仕様は、記載した出典に基づく公開情報です。取材による非公開情報および推定値は含みません。無断転載を禁じます。